

# Aさんの暮らしの課題について

アイホーム福井

# プロフィール

名前 Aさん

年齢 福井特別支援学校 中学3年生（平成29年当時）

診断名 脳性小児麻痺 5歳児にてんかん発作が出現  
中程度の知的障がいB1 自閉的傾向（H29.9月に療育手帳申請）



## ☆家族状況☆

- ・父（義父）母の3人暮らし  
母は精神疾患あり、スケジュールの調整や荷物の準備等にも抜けがある。  
Aさんは、父との関係性のことで愚痴をこぼしている。母方の祖父母との関係性は良好。
- ・日常生活は車いすを使用
- ・Aさんは、対人面でのコミュニケーション能力が高く、自分の思いを言葉にして人とのコミュニケーションを取ることが出来る一方、対人面の事や自分の意に沿わない事があると声を荒げたり、特定の物や人に対するこだわりが強く見られる傾向にある。

## 学校との連携 ①

### ( 利用当初 )

母はフルタイムで働いていることもあり、スケジュールの抜けが多いため学校へむかえに行くとりハビリへ行くために学校を早退していたり、委員会や行事等で下校時間の変更や当日キャンセルが多かった。

- ・学校でも同じ状態だったのか。
- ・学校としてはどのような対応をしていたのか。。

### ( 学校の担任の先生に相談 )

担任の先生から、その月ごとに委員会の日や行事がある日程等の下校時間を月初めに連絡してもらえることになった。他にも、一つ一つの問題行動に対して学校でAさんに対応するやり方を丁寧に教えてもらったり、学校の参観をしてAさんの学校の様子から支援のヒントになる事を学ばせてもらう。

### ( 結果 )

学校の様子を参観したり、担任の先生から話を聴きアドバイスをもらうことで、Aさんの困り感が減り、支援がスムーズになった。

( 思春期を迎えたAさん )

H29.4月頃、好きな女の子(Bさん)がいない利用日は拒否が強くなっていく。

Bさんの  
いない日は  
来たくない

Bさんが  
いない日は  
営業するな

Bさんが  
いない日は誰の話も  
聞きたくない



Bさんは今日  
ほんとに  
きているの？

Bさんが  
いない日の  
話はするな

## ( Bさんがいない利用日のAさんの行動 )

### (Bさんがいない日は)

- ・ 学校から出てくるとき（送迎時）に拒否が強い。
- ・ 友達が話しかけても、話を聴かずに嫌なことを言う。
- ・ 「帰る」と言い、まわりに人がいても、物があっても確認せずに車いすを自走し危険な行動をとる。（スタッフが静止しても聞かず危険）
- ・ 静止するスタッフに暴言や叩く等、暴れる行動をとる。

・ 学校でも同じ状態だったのか。  
・ 学校としてはどのような対応をしていたのか。。

### ( 家族に相談 )

4月から、その都度くりかえし現状を伝え話をしてきたが、6月になっても状況は変わらなかった。

### ( 相談支援専門員・学校に相談 )

6月後半、相談支援員に現状を伝え、学校や関係機関が集まり7月初め頃福井特別支援学校にて話し合いの場を設ける。

# 7月学校での話し合い

相談支援専門員の協力で、Aさんと両親、学校の関係者、Aさんの利用している放課後等デイサービスA、放課後等デイサービスBの方々が集まって「Aさんの暮らしの課題について」話し合いを開催しました。

【かだい ＊ みんなで話し合うこと ＊】

・学校での様子。

## ① 社会的ルールを守ることにについて( 3つの課題 )

(1) 暴言・暴力行為

(2) 車いすを自走して外に出ていこうとする。(スタッフが静止しても聞かず危険)

(3) 特定の生徒に対しての好意・こだわりが強く対象の児童がいない時に大声を出す「営業するな」等の発言あり。  
これまで、家族とアイホームで情報のやり取りをしながら支援を続けてきたが、改善されていない。

## ② 将来の暮らしを見据えて自宅以外の場所で過ごすことについて

(1) 寄宿舍の利用を増やせないか。

(2) 短期入所等のサービスが使えないか。<sup>6</sup>

## ①社会的ルールを守ることについて

【どうしていくとよいか・一緒に考えましょう】

（ 参加者の意見 ）

- ・アイホームから、別の事業所へ利用回数を増やしたらどうか。
- ・将来の暮らしに備えて、学校卒業後も利用できる事業所を家族と一緒に見に行って利用してはどうか。
- ・学校の寄宿舎の利用を増やす提案も出る。

（ Aさんの気持ち ）

- ・他の人に対する発言や、外に出ていかないことを守れるかは自信がない。気持ちが、抑えられないかもしれない。

（ 家族の思い ）

- ・他の人に迷惑をかけずに、社会のルールを守ってほしい。

## ② 将来の暮らしを見据えて 自宅以外の場所で過ごすことについて

【どうしていくとよいか・一緒に考えましょう】

（ 参加者の意見 ）

・ 5月頃、支援者の母が体調を崩して入院になったことに伴い、祖父母の支援を受けたが、家族や親族への介護面・精神面での負担が大きく緊急時の支援にリスクが高い。そのため、緊急時や将来の暮らしを見据えて、自宅以外の場所（定期的なショートステイ等）を利用するのはどうか。

・ 現在、火曜日に学校の寄宿舎で泊まる機会が定期的にあり落ち着いて過ごせているため、現在週に1回の泊りだが、泊りの回数を増やしてみるのはどうか。

寄宿舎利用に関して。

（ Aさんの気持ち ）

・ 家族が入院しても、体調を崩しても出来るだけ自宅で暮らしたい。泊りは、本当はしたくない。でも、どうしてもやっていかなければいけないのなら、新しい事業所の方がいいな。

（ 家族の想い ）

・ 将来の暮らしをととても心配している。安心して将来を暮らしていけるように施設の利用も考えていきたい。



# 学校での話し合いの後 アイホームのスタッフで Aさんにとって1番良いと思う方法を話し合う

話し合いにも提案されていた  
利用日を減らすのはどうか？

急に利用日を減らしても  
他の事業所へ行けるのか？

来たくない気持ちで  
ずっと不穏な状態は  
Aさんも辛いのでは？

Aさんが  
暴れていたり  
暴言を聞いているのは  
他の利用者も辛いのでは？

いろいろな意見が出ました。

【結果】

月・木・金・祝日の利用を→ 金曜日のみの利用に利用日を減らすことになる

・話し合い後、学校としての取り組みについて。

## 【 学校で話し合いをしたことで 】

学校で話し合いをしたことで  
Aさんとの一対一の話し合いではないため  
自分が発言したことを少しずつ守れるようになり  
Aさんにとって一番良い方法で利用できるようになった

(その背景には)

学校や相談支援員、各関係機関の方々の協力が  
あり、Aさんが一番良い方法で利用できることが  
実現できた。

## ひとつの事業所（アイホーム） だけでは解決できない事でも



各関係機関と連携し  
一貫性をもって対応することで  
支援の幅が広がりよりよい支援につながっていく